令和6年度（2024年度）第1回環境基本計画推進委員会 議事録

- 1 日時 令和6年（2024年）5月21日（火）13時30分～15時00分
- 2 場所 東海市役所 501会議室
- 3 出席者 山本 隆明、吉原 雅哉、榊原 弘之、近藤 高史、牲川 順一、早川 権慈、毛利 まり子、南川 陸夫、寺島 賀子、武富 時満、田中 治幸、森岡 良枝、吉鶴 弥生、加古 博之、龍田 昭一、千頭 聡アドバイザー（委員15名、アドバイザー1名、敬称略）
環境経済部次長兼生活環境課長、リサイクル推進課長、生活環境課ゼロカーボン戦略室長、生活環境課統括主任2名、生活環境課主任2名、リサイクル推進課主任、株式会社地域計画建築研究所3名
（事務局8名、業務委託業者3名）
- 4 欠席者 なし
- 5 会議の公開 公開
- 6 傍聴者 0名
- 7 内容
 - 1 あいさつ
山本委員長よりあいさつをした。
 - 2 報告事項
前回会議の議事録について、事務局より資料を用いて報告を行なった。委員からの意見等はなし。
山本委員長より地球温暖化対策プロジェクトチームのリーダー及びサブリーダーの指名があった。リーダーは山本委員長、サブリーダーは龍田委員が指名された。
第1回委員会の進め方について、資料を用いて説明を行なった。
 - 3 協議事項
 - (1) 令和6年度版環境基本計画年次報告書について
年次報告書について、例年環境の柱ごとに作成年度の活動に関する委員の意見及び次年度の取り組み方針を記載しているが、今年度については次期計画の「計画期間の振り返り」の中で検討し記載するため、年次報告書では記載しないこと等を説明した。
委員からの意見等はなし。
 - (2) 現計画の振りかえり（現状・課題、今後の方向性等）
事務局より資料を用いて説明を行った。事務局及び千頭アドバイザーから、留意事

項として次のとおり説明した。

(事務局) : 「進展したこと」よりも「進展できなかったこと」及び「今後どういふことをしていきたいか」について、特に意見をいただきたいと思う。

(千頭アドバイザー) : めざすふるさとの姿を実現するために、計画期間全体を振り返ることができればと思う。

部会に分かれて議論し、その内容について、全体会で各部長より概要を報告した。

ア 社会環境部会 (寺島部会長)

めざすふるさとの姿の「空気がきれいで、快適に暮らしています。」については、降下ばいじんがネックになり×の評価とした。残りのふるさとの姿についての評価は△又は○で、ビジョン全体に対する評価は△とした。

ビジョン・めざすふるさとの姿の評価の中で「進展したこと」 : ごみの分別が進んできていること、フードロスやこども服の循環が進んでいること、という意見があった。

「進展できなかったこと」 : 降下ばいじん問題と、啓発を担っている各種団体に新しい人が入らず、後継者がいないことという意見があった。

「今後必要なこと」 : 加木屋緑地周辺などの開発が進んでおり、グリーンベルトを作ることで降下ばいじんを防げるのではないかという意見、公共交通機関について、バスの本数とステーションの数やルートを見直し、利用しやすくしてはどうかという意見があった。

イ 生活環境部会 (吉原部会長)

めざすふるさとの姿のうち「多くの市民が環境にやさしい行動をしています。」については、エコスクールなど、一定数の活動があり評価できるが、一方で教える方の人材がもう少し活動を推進する必要があるという意見があった。

「空気がきれいで…」 : 一定程度評価できるが、改善が難しいとして、△の評価とした。

「地球温暖化に関心を持つ人が増え、温室効果ガスの排出抑制に努めています。」 : 特に評価でき、関心持つ方が増えているという意見があり、○の評価とした。一方で、らんらんバスの在り方含めた地域交通について利用しやすい形態の検討が必要という意見があった。

「緑 (公園・緑地) や水 (河川・池) がつながり、生物が身近に生息し、人と自然が共生しています。」 : 計画で取り上げる公園は指標がきちんと管理されているため、農地や里山まで対象を広げると開発のスピードやバランスについてもう少し

改善の余地があると考え、△の評価とした。

「『もったいない』意識が高まり食品ロスなどが少なく、ごみの分別が徹底され、資源が循環しています。」：まだ使えるものや資源物が捨てられているため、啓発や活動の余地があるという意見があり、△の評価とした。

ウ 廃棄物・リサイクル部会（榊原部会長）

全体評価は△の評価とした。

めざすふるさとの姿に関しては次のとおりの評価であった。

「多くの市民が環境に…」：△、「空気がきれいで、…」：△、

「地球温暖化に…」：○、「緑（公園・緑地）や水…」：△、

「『もったいない』意識…」：○

「進展したこと」：ごみの量が減っていること（具体的にはごみ袋の使用枚数が減ってきていること）、ごみの分別が進んでいること、市内のスーパーや無人集積所等で資源物の回収がなされていること、などの意見があった。

「進展できなかったこと」：環境美化にも関連することだが、道路沿いの広告看板が多く、ヨーロッパなどの街並みと比べると景観に配慮がないという意見があった。

「今後必要なこと」：市民が興味を持てる企画を立てることや、効果的なPR方法の検討が必要という意見があった。次に、環境問題自体に関心を持ってもらえる人材づくりが今以上に必要になってくるという意見があった。

ビジョンについては、まずは市内の子どもたちにふきや洋ランなどの東海市の自慢できるところをもっと知ってもらい、市に対して誇りを持てるようにするのがよいのではないかと。

エ 事務局意見

委員からのビジョンへの評価の総括として△とする意見が多かった。部会長から報告があったが、それ以外にも部会の中で委員の皆さんから様々な意見をいただいております、これらをまとめて第3次環境基本計画の検討に活かしていきたい。

オ 千頭アドバイザー意見

結果を分析的に考えると、総合的なビジョンは△の評価だったが、それに対しどのような戦略を取っていくかについて検討していかなければならないと考える。個々の施策に関して、目指す姿のどこが引っかかっているのか、×をつぶすアプローチと、○を◎にするアプローチに分けて考えていくのがよい。

(3) 第3次環境基本計画の策定について

事務局より資料を用いて説明を行った。計画フレーム、環境を取り巻く社会情勢について委員からの意見等はなし。

ア 環境の柱、施策体系等の構成

(寺島部会長)：第3次計画の基本的な施策で「3R活動の推進」とあるが、3Rにとどまらず5Rを推進していく時期ではないかと思う。

(事務局)：5Rは3Rを細分化したものであり、現在のところ5Rを推進していく予定はないが、部会で検討していきたい。

イ 千頭アドバイザー意見

5Rというのは実は3Rを細分化しただけであり、最近の傾向としては3Rのうちリデュース・リユースを優先して、リサイクルは最終手段ととらえる考え方が広まっている。

資料5-1の最後に「計画の推進主体」とあり、市民や事業者の役割を記載していく予定だが、これらは様々な計画において記載されているものの、市民や事業者の取組について誰がどうやって進行管理するのかという議論が行われていない。市民、事業者、地域団体がどのように頑張っているかの確認や把握できるような仕組みを入れておかないと、記載しただけで終わってしまうので、その仕組みについても議論すると良いと考える。

4 その他

(1) 今後のスケジュールについて

事務局より次回の部会と推進委員会のスケジュールについて説明を行なった。

(2) 意見書について

事務局より資料を用いて意見書についての説明を行なった。